

平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	愛知教育大学附属特別支援学校
-------	----------------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人愛知教育大学	特別支援学校	知的障害	愛知教育大学附属特別支援学校（あいちきょういくだいがくふぞくとくべつしえんがっこう）

2 研究課題

知的障害児の将来を見据えた作業学習を含む就労支援のあり方

3 研究の概要

本校では、児童・生徒のよさを活かした学習のあり方を求め、高等部の作業学習をはじめとした教育活動に取り組んできた。そして、一人一人の適性を見きわめ、保護者とともに様々な就労先に進路を選択させてきた。しかし、最近では知的障害者の就労は大変厳しい社会情勢となっており、生徒たちには、そのような状況下においても就労ができる力を身につけさせなければならない。そこで、様々な技能をもっている優れた人材をコーディネーターとして招聘し、年間を通じた作業の中で生徒の個性に応じた作業補助具や治具を開発するとともに、これまでの作業学習のあり方を見直し、どの生徒にも優れた技能がつけられるようにしたいと考える。また、ハローワークや地域の作業所、就労移行支援事業所の有識者、特別支援教育の専門家（大学教授等）を交えた就労支援ネットワーク会議を開催し、知的障害児が就労しやすい環境を整えることに寄与したい。

4 研究の成果

本校の作業学習では、窯業、木工、織物、農業の各グループに分かれて実施している。窯業及び木工について、専門的知識や技能を有するアドバイザーを定期的に招聘し、ご指導・ご助言などを頂いた結果、窯業では、表面仕上げの技術向上、発色の良い焼き上がりによる、製品の品質向上につなげることができた。また、木工ではルーターや丸鋸盤に安全かつ正確に作業できる治具の自作、工具調整、作業工程確立の助言等を通して、従前では不可能であった複雑な形状をした材料の加工ができるようになり、生徒の自信を深めることに成功した。織物ではコーディネーターの配置により年間を通して計画的な作業学習の効率化、見直しを図れたため、製品完成までの時間短縮につながり、昨年度比で、1.5倍ほどの数の製品を作ることができるようになった。同時に作業学習で完成された製品は保護者会や評議員会の他、運動会、研究協議会、学芸会など一般公開される学校の主要な各種行事に特別支援教育を専門とする大学教授や地域の作業所、就労移行支援事業所など知的障害者の就労に関わっている関係諸機関の方々をお招きし、展示したが、製品の仕上がり具合について数多くの称賛を頂けたので、作業学習における技能面の向上、さらに生徒自身の働く意欲の向上に繋がったことが研究の成果といえる。

5 課題と今後の方策

本校の作業学習を効果的にし、生徒に、より高度な作業技術を身につけさせるためにコーディネーターの配置及び就労支援ネットワーク会議の恒常的な開催が必要であったが、人選に苦慮したため、計画どおりに遂行することができなかった。専門家（大学の教授等）を通じて全ての作業分野でコーディネーターを配置し、年間を通した学習内容の見直しを行うこと及び就労支援ネットワーク会議における助言、連携を活用することができれば、より高度な研究成果が達成されたと思われる。また、高等部主事、進路指導主事が中心となって、就労移行支援事業所等障害者の就労に関わる関係諸機関、保護者との連携をより強化させ、作業学習で身につけた技能と生徒自身の適性に、よりふさわしい就労先を開拓することが今後の課題である。